

## 12.9 自然災害に関心を持つことの大切さ（1）

われわれの子供のころは、草野球はごく普通の遊びでした。子供の数も多かったし、ちよつとした空地もあったし、大した道具もいらなかったこともあったと思います。いまは、サッカーボールを持つ子供も多く、サッカーへの人気が高いらしい。

ところで、今年のプロ野球は、ほぼ半年かけて両リーグともに関西の球団が優勝することになりました。野球はチームスポーツですので、一人のスーパースターや海外からの助っ人だけではなかなか勝ち続けることは難しい。かといって、草野球のように練習していれば強くなるというものでもない。長丁場を戦うわけですから、それなりの戦術を持っていないといけないわけで、いわば基礎力、応用力がかみ合わないと思われれます。

その基礎力は、それぞれの役割に応じた素質を見出して活性化することで、応用力とはそれを状況に合わせて開花させていく手立てであり、トップの息の長いマネジメントとそれを理解したスタッフの意気と投資力ということになります。

自然災害への対応も、実はこのプロ野球と同じように見えてくることがあります。自然災害は突発的で、発生すればどうにも手が出ないものですので、事前からの準備と発生した時の適切な反応が被害を最小にし、犠牲者を出さないことにつながります。しかし、災害は一過性のようにも思われ、時とともに風化するという特性もあります。いかに継続して次世代につなげていくのかという大きな課題もあります。

今回の優勝に関して、多くの方が指摘しているのは、地道にぶれない計画のもとに育成選手を育て上げたことが要因とも言われています。これまでの一過性の、起爆剤的なものではなく、確たる構想のもとで進めていくこと、常に評価分析をして修正をしながら目標に向かっていくということではないかと思えます。時間も辛抱を要することでもありますが、選手も球団もそのプロセスを理解して基礎づくりをすることで目に見えるものができてくることになります。それこそ継続することの大切さ、基礎力の重要性を改めて感じ、自然災害への対応の面でも、学ぶべき点があるように思われます。自然災害は必ず発生することを考えれば、基礎力を身に着けて、いざというときにはその応用力を発揮して被害の最小化を図ることのために、国民が合意して対応すべきことがあるように思えます。

もちろん、総論賛成で各論では反対というようなことを続けていけば、無駄な投資を続けていくことになるのは当然です。例えば、リスクに応じた土地の利用の仕方にして、一面的な対応だけでは不十分なわけで、全体を俯瞰した先を見据えた政策立案して進めていかないと、同じような或いはそれ以上の負荷が発生すると思えます。防災は、個々への対応というのは当然ですが、まずは国土保全という面での理念を明確にすることが大切です。縦割りで短期の政策ではなく、それぞれの期間を横断した明確な理念を見せていく必要が緊急の課題であり、南海トラフや首都直下地震が迫り、気候変動による異変が平常化している時に少々危機感がなさすぎるような気がします。（このコラムは令和6年能登半島地震の発生前に書かれました）